

2011年5月10日

各位

オリックス株式会社
(コード番号: 8591)

2011年3月期連結決算(2010年4月～2011年3月) 当期純利益は前期比78%増の673億円

2011年3月期(2010年4月1日～2011年3月31日)の米国会計基準連結決算における税引前当期純利益は前期比68%増の920億円、当期純利益は同78%増の673億円となり、2期連続で前の期に比べ70%を超える増益となりました。

事業部門別においては、全セグメントにおいて黒字を計上しました。「海外事業部門」が引き続き好調で、「リテール事業部門」「メンテナンスリース事業部門」も順調に推移しました。

主な経営指標の推移

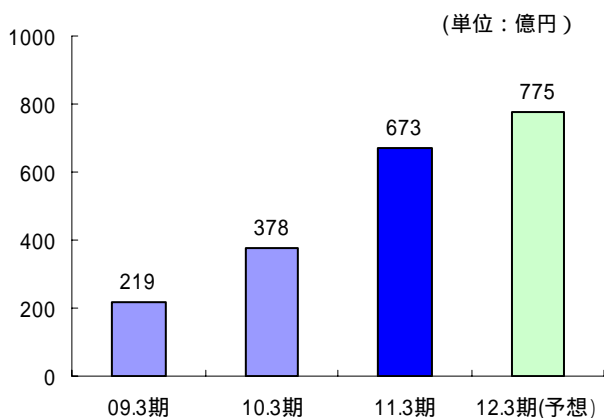
	2010年3月期	2011年3月期	増減率
営業収益	9,123億円	9,701億円	6%
税引前当期純利益	546億円	920億円	68%
当期純利益 (1)	378億円	673億円	78%

	2010年3月末	2011年3月末	増減率
総資産 (2)	77,398億円	85,816億円	11%
セグメント資産	62,843億円	61,428億円	2%
株主資本	12,987億円	13,193億円	2%
株主資本比率	16.8%	15.4%	-

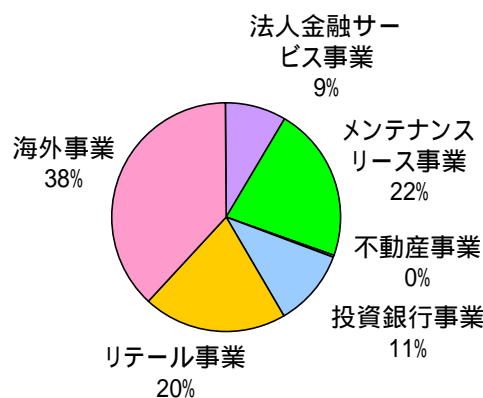
(1) 「当期純利益」は、決算短信などの財務諸表で記載している「当社株主に帰属する当期純利益」と同じです。

(2) 「総資産」は、米国家計基準変更に伴い、当連結会計年度より連結する変動持分事業体(VIE)が増加した結果、増加しています。詳細については決算短信および補足資料をご覧ください。

『当期純利益の推移』



『当期のセグメント利益内訳』



各セグメントの業績概要（2010年4月1日～2011年3月31日）

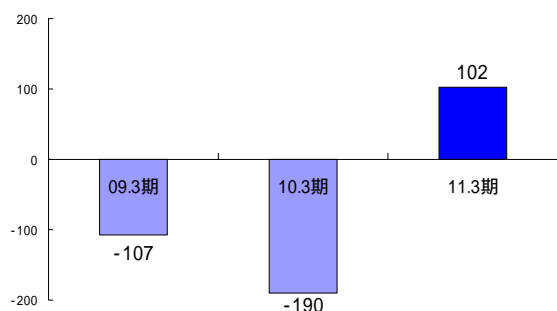
当期は、2008年3月期以来、全セグメントにおいて黒字を計上しました。

引き続き好調に推移した「海外事業部門」に加え、「リテール事業部門」「メンテナンスリース事業部門」が順調に推移しました。また「法人金融サービス事業部門」「投資銀行事業部門」が黒字に転換しました。

【法人金融サービス事業部門】

融資、リース、金融商品販売などの手数料ビジネス、環境関連ビジネス

<セグメント利益>（単位：億円）



- ・ M&A やリース債権買取などによるファイナンスリース投資の増加や環境関連ビジネスにおける収益が増加。
- ・ 貸倒引当金繰入額は東日本大震災による一時的な繰入があったものの大幅に減少。
- ・ セグメント利益は、前期の 190 億円の損失から 102 億円の利益となり 3 期ぶりに黒字化し、増益に最大の貢献。

【メンテナンスリース事業部門】

自動車リース、レンタカー、カーシェアリング、測定機器・情報関連機器などのレンタルおよびリース

<セグメント利益>（単位：億円）

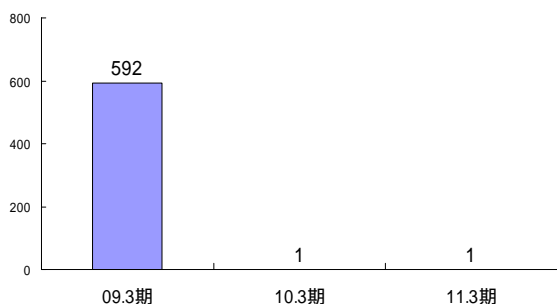


- ・ 企業のコスト削減ニーズなどに対応した高付加価値サービスを提供し収益は安定。
- ・ 車両の売却やメンテナンスサービスからの収益が堅調に推移。
- ・ セグメント利益は、前期の 233 億円の利益から 262 億円の利益となり高い収益性を安定的に堅持。

【不動産事業部門】

オフィスビル・商業施設などの開発・賃貸、マンション分譲、ホテル・ゴルフ場・研修所などの運営、高齢者向け住宅の開発・運営、不動産投資法人（REIT）の資産運用・管理、不動産投資顧問、不動産ファイナンス

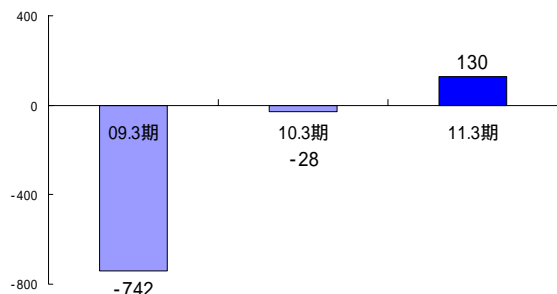
<セグメント利益>（単位：億円）



- ・ 分譲マンションの販売収益や不動産賃貸収益が増加、貸付金収益や不動産売却益は減少。
- ・ 長期性資産の評価損が増加したものの、貸倒引当金繰入額や販管費などが減少。
- ・ セグメント利益は、前期から横ばいの 1 億円の利益を計上し黒字を確保。

【投資銀行事業部門】

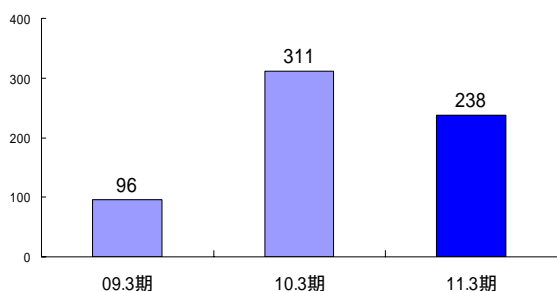
サービス（債権回収）、プリンシパル・インベストメント、M & A アドバイザリー、ベンチャーキャピタル、証券
 <セグメント利益> (単位：億円)



- ・ PE 投資案件や連結子会社を含め、投資先の売却に伴うキャピタルゲインを実現。
- ・ サービス事業の大口回収や CMBS のサービシング受託手数料収益が堅調に推移。
- ・ セグメント利益は、前期の 28 億円の損失から 130 億円の利益となり 3 期ぶりに黒字化。

【リテール事業部門】

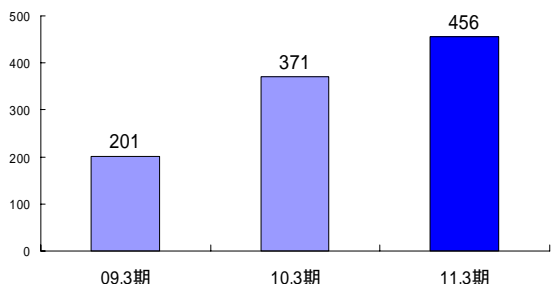
生命保険、信託銀行、関連会社のカードローン
 <セグメント利益> (単位：億円)



- ・ 生命保険事業は、保険契約数の増加により保険関連損益が順調に伸長し、運用損益も堅調に推移。
- ・ 信託銀行事業は、住宅ローンや法人向け融資が増加し、収益、利益ともに拡大。
- ・ セグメント利益は、前期は連結子会社の株式売却益が大きく計上されたため、前期の 311 億円の利益から 238 億円の利益となるも、順調に推移。

【海外事業部門】

リース、融資、債券投資、投資銀行、不動産関連、船舶・航空機関連
 <セグメント利益> (単位：億円)

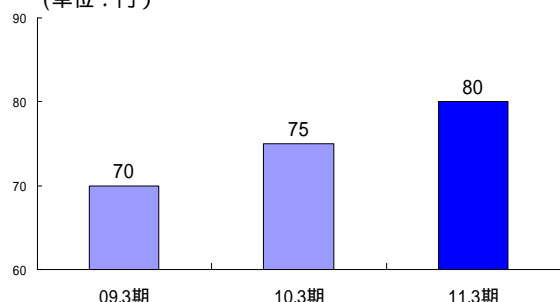


- ・ 米州地域では、債券投資の増加やレッドキャピタル社およびマリナー社の M&A を実行。
- ・ 中国、ベトナム、韓国などアジア諸国を中心とした PE 投資や航空機リース事業などの投資増加もありセグメント資産は増加。
- ・ セグメント利益は、前期の 371 億円の利益から 456 億円の利益となり好調に推移。

当期の配当金

当期の1株あたりの配当金は、前期の75円から5円増配し、80円といたします。

(単位：円)



2012年3月期の連結業績予想と今後の方向性

2012年3月期の連結業績見通しは、営業収益は当期比1%増の9,800億円、当期純利益は同15%増の775億円を予想しています。

オリックスグループは、多岐にわたる分散したポートフォリオによる事業展開をもとに、オリックスの強みである独自性・ユニークさを極め、金融に専門性を結びつけた「金融+サービス」事業をさらに進化・成長させていきます。また、専門性のグローバル展開を強く推進し、アジアなどの新興国の成長を取り込むことでより高い成長軌道へと飛躍し、中期目標であるROE10%の実現を目指します。

詳細は、当社ホームページにて掲載の決算短信および決算補足資料をご覧ください。

URL : <http://www.orix.co.jp/grp/ir/settlement/>

以上

< 本件に関するお問い合わせ先 >

広報部 池田・堀井 / 経営企画部 IR チーム 富永・竹村

TEL : 03-5419-5102